

占

●社長の顔●

占いの玉手箱

竹村 亜希子

社長の顔には、概して同じような特徴が見られる。

額と鼻と耳。

この三つを観察して見れば、なるほどと納得してもらえざるはずである。鼻、額をチェックし、耳を見比べてみれば「この人は社長になれる」と判断できるというものだ。

まずは、鼻からみてみよう。

人相学では「顔全体」がその人の属する社会を表し、鼻はその人自身を表すとされている。つまり鼻は、その人物がどれだけ縄張りを張ることが出来るか、社会的な地位を得ることが出来るかのバロメーターなのである。だから経営者といわれる人は皆立派な鼻をお持ちである。

たとえば三菱化学相談役の鈴木精二さんの鼻。これは典型的な立派な鼻といえる。高く、大きくて、小鼻がしっかりと張っている。

人を比較してみると大きな違いがある。東芝相談役の青井舒

一さんは鼻筋の太い直感派であり、いわゆる実践派なのである。一方の鈴木さんは理論家タイプといえるだろう。

日本生命保険の伊藤助成社長の鼻もまた実に立派である。しかも鼻の先が少し下を向いている点に注目してほしい。鼻の先が下を向くとはどういうこと



か。「伝統を守る」という意味がある。さらにいうならば、冒險を好まないで、保守的ということでもある。この性格は、保険業界にピッタリといえるだろう。

ソニーの大賀典雄会長の鼻は、これはもう絶賛ものである。その大きさといい、肉付きといい、並じゃない。顔の真ん

中に悠々と座っており、どっしりと胡座をかいているさまは、まさに世界を股にかける鼻とも表すべきかもしれないほどだ。

次に額について触れてみよう。額とはつまり額にある三本の皺の形状を言う。

前にも登場いただいた東芝の青井相談役は、三本の皺がとてもしきれいでている。ただ、専門的な指摘をさせてもらうならば、一番下の線がやや弱い点に気になる。

三本の線の意味するところは、簡単に説明すると、上の線が「目上からの引き立て」であり、真ん中の線は「自分の持つ運氣と実力」、下の線は「部下の能力で伸びる」。

だから青井相談役の場合は、上と真ん中が良くて、下がやや弱いということだ。これを解釈するならば、ご本人に実力があって、目上の引きも凄いいし、信用も圧倒的。自分で何でも出来るからついついやりすぎてしま

う。もつと部下にいろんなことを任せるようにすればいいのである。

本田技研工業の川本信彦社長の額の皺も二本とも綺麗である。しかし、じっくりと観察してみると、真ん中と下は綺麗だが上が少し弱いようだ。下の線は部下を育てる能力が優れていることを表している。つまり部下にやる気を起こさせる能力に長け、やる気が起きるような環境作りも頗るお上手というわけである。上の線が気になるところだが、川本さんの場合はさほど気にしなくて大丈夫である。目上に対して率直にものをいう性格だが、だからといってトラブルは起きないからこれも天賦の才といえるのでは。

クレアイセゾン相談役の青木辰男さんの場合も、上の皺はなけれど下の線がくつきりしているので、こういう人は部下の育て方がきわめてお上手である。もう少しいうなら、青木さんのように一番下一本が見事に

くつきりと出ている人は、本当に部下を育て、やる気を起こさせることが出来る人といえる。

一般的な皺の見分け方は、たとえば一本が目立つ場合、その一本がものすごく優れていると思つて間違いない。逆にある一本が目立って弱い場合は、そこがマイナスポイントというわけではない。その人は、そこに重きを置いていないというわけだ。線が出ていないといつて心配する必要はない。心配しなければならぬのは乱れた線が出ている場合である。この場合でも、それを戒めとすればいいわけで、決して悲観する必要はない。

トーマン会長の北村恒夫さんは、一番下の線がいい。

日本郵船相談役の宮岡公夫さんは二本とも綺麗である。

鼻、額の次は耳である。

耳の形の一番はなんとつても新日本製鐵会長の齋藤裕さん。この耳の大きさは絶品である。

「易経」にこんな言葉がある。「古者君徳ヲ称賛スル必ズ諫ニ従ヒ言ヲ納ルルヲ以テ首ト為ス」

簡単に訳してみるならば「リーダーというものは必ず賢者の言葉を聞き入れる」ということだろう。

リーダーであれ、経営者であれそういう能力が必要である。

リーダーにこの能力がないと「国が乱れる」といわれたものだ。その能力を備えている人物は、耳をみればわかる。つまり、耳にこの能力の有無が出ているわけである。

東京電力相談役の平岩外四さんの耳も大きくて立派である。

その他には、NEC会長の関本忠弘さん、東京三菱銀行相談役の行天豊雄さんの耳も立派である。

一代で地位を築いた人や大企業のトップはそれぞれ立派な人が多い。そしてやっぱり鼻、額、耳の形が優れている。

(たけむら あきこ)